特集

『つくる防災・笑うまち』講演会
～住民主体の防災まちづくり～
市民が市民を支える地域づくりのために

多様な市民ニーズに対応しながら住民相互が支え合う『災害にも強いコミュニティづくり』のために、今後どのような展開が求められるのかを、社協のVC（ボランティアセンター）、地域住民、行政、NPOと共に考えました。

沖縄県ボランティア市民活動支援センターの事業の柱の一つに、災害時のボランティアセンター本部の設置・運営及び被災地ボランティアセンター支援があります。今年度は、その一環として平成21年度災害ボランティアセンター研修として10月23日（金）「災害にも強いまち＝住民主体のまちづくり」をテーマに『つくる防災・笑うまち』講演会を、日本NPOセンター事務局次長　坂口和隆氏をお迎えして開催しました。

▲講師の坂口和隆氏

●VCは協働の結節点

西東京市ボランティアセンター運営委員長や様々なNPOの役員を歴任されてきた講師の坂口氏からは、まず、ボランティアや団体だけではなく一般の人たちが訪れる窓口であるボランティアセンター（以下VCと省略）が、『市民活動と行政を結ぶ市民の窓口』として十分機能する事で多様な市民ニーズに沿えるとして、そのために、VCは運営委員会による積極的運営や事業評価のフォーマット（簡素）化をしっかり行うこと、地域の課題を表にだすアドボカシー機能の充実が重要であるなど、詳細な説明がありました。

●地域を支えるのは、地域にいる『想い』のある人たち

続いて、阪神淡路大震災時に、生き埋めになった人たちの大半が近所の人たちに助けられたなど具体例を挙げながら、長年地元に住んでいる人と新たに移り住んだ人が一致団結して地域づくりを進める大切さについてお話がありました。また、災害ボランティアセンターマニュアル作成と訓練による備えと同時に、実際の現場では、想定外の事が起こるため①マニュアルだけに頼らないVCを軸にした柔軟なボランティアコーディネート体制の確立②平常時からリアリティをもって災害時のイメージをする③社協、企業、NPO等の各種団体と名簿やマニュアルの上だけではない生きたネットワークの構築を行うことによって、発災時に、想いのある住民とともに被災者（住民）主体の支援を行うことができると強調されていました。

▲豊見城市社会福祉センター研修室にて行われた講演会

◎本・ガイドの紹介◎

『市民のための体験的・災害対応訓練』

・楽しみながら役立つ訓練や市民講座の実践集となっています。また、企業との連携について考えるヒントも掲載されています。すぐ使える内容満載の小冊子です。（東京ボランティアセンター発行）

『社協の防災・減災活動ガイド』

・今回報告発表を行って頂いた宜野湾市伊佐区の取り組みや那覇市推進会議による自治会訓練について掲載されています。また他の取り組みも掲載されており今後地域で訓練を行う際などに参考になるガイドです。（問い合わせは県VCへ電話・〇九八ー八八四ー四五四八）

●西東京市ＶＣの取り組み～自主事業から派生事業までの広がり～

講話から西東京市ＶＣが主催した地域の危ないところを一緒に歩いて地図に記していく『まち歩きワークショップ』事業から次々と派生して、防災の新たな取り組みが地域に展開された説明があり、その中でも派生した事業の一例として紹介された公民館と自治会共催による「親子避難所体験ワークショップ」については、公民館に宿泊しながら避難体験をするという取り組みに、多くの参加者が興味をもって耳を傾けていました。

▲実践事例報告の様子

●県内取り組み事例の報告とまとめ

休憩を挟み、講演会後半には那覇市社協（仲宗根三奈氏）と宜野湾市社協（宮城美由氏）より住民主体をめざした災害訓練や避難所シミュレーションなどに取り組んだ報告があり、県内外の防災取り組みを共有する場となりました。（報告内容の概略については以下の囲みをご参照下さい）講師からは二氏の報告をもとに住民主体の取り組みを進めるためのコミュニティＦＭ活用など細やかなアドバイスがあり、報告者・受講者ともに、熱心にメモをとる姿がみられました。

また、訓練をしてもらうのではなく、「私の訓練」と住民自身が思えるようになるために、社協ＶＣは、自助、共助、公助のバランスを意識しながら、他機関ができることを『ハンドオーバー（引き渡す）』するという立ち位置を踏まえ、多くの市民が参加するプロセスにしっかりと関わることで『地域の人が自ら動く＝住民主体』が実現されるとしてお話のまとめがありました。

沖縄県ボランティア・市民活動支援センターにおいては、今後も各地域の防・減災の取り組みに注目していくとともに、『災害にも強いまちづくり』の支援のために、様々な取り組みを続けていきます。

＝住民参加による防災・減災（宜野湾市伊佐区）の取り組み＝

宜野湾市社協
宮 城 美 由 氏

住民主体のしくみ作りで更に広がる！

「津波発生時の避難場所がない」ことを不安に思う伊佐地区住民の声を事業化し災害時避難所生活シミュレーションや避難訓練を実施。避難訓練時には避難ルートの設定に住民自ら関わるなど、徹底した住民主体のもと訓練が進められてきました。また「肉なし、きざみ具、普通食」にして、多様なニーズ・マイノリティへの気づきをもたらすような炊き出しメニューや、住民から訓練中に感じた思いを聞き取り、訓練後に地図に落とし込んで配布するなど、住民への主体性を促すための取り組みが行われました。また、伊佐地区に触発され、大謝名団地でも災害時の訓練が始まりました。

＝那覇市災害救援ボランティア推進会議の取り組み＝

那覇市社協
仲宗根 三 奈 氏

多様な機関とのネットワークで動く！

首里鳥堀町の長雨陥没土砂災害時に、社協の災害ＶＣと行政各課との連携が十分できなかったなどの教訓をもとに、災害時における関係機関の連携を図る事を目的にした意見交換会を経て、現在の推進会議が立ち上がりました。現在の参加団体は自治会、行政、赤十字、ＮＰＯ、商工会など２１団体。これまでに各機関との連携を重視しながら国場や銘苅新都心で避難訓練を重ねてきています。

今年度は那覇・真和志・首里・小禄の４地区で自治会・老人クラブ向けに災害の研修会が開催され、災害時の普及啓発に着実に取り組み中です。

新年のごあいさつ

社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会
社会福祉法人 沖縄県共同募金会
会長 新垣雄久

新年 あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、希望に満ちた新春を健やかにお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、国内外の「変革」の流れの中で社会・経済情勢はめまぐるしく変化し、世界的な金融危機による雇用、生活不安の増大等により、新たな福祉課題が顕在化した年でもありました。

福祉現場に目を向けてみますと、介護等の人材不足が深刻化しており、福祉・介護人材の確保・育成・定着化に向けた対策が急務となっています。

このような中、本会では、「生活福祉資金貸付事業」、「福祉・介護人材マッチング支援事業」等を通じて、本年も援助を要する方の生活支援や福祉人材の確保対策を重点的に取り組んでまいります。

一方、多様化する福祉ニーズへきめ細かく対応するためには、地域の中で暮らす人々が共に支え合う「共助」の仕組みづくりが求められています。そこで、本会では住民による防災・減災に向けた活動や高齢者の社会参加の促進等、共助を支える「地域の福祉力」の向上を目指した事業を展開しています。

合計特殊出生率が全国一高く、長寿を敬う風土が息づく本県の特性を生かし、あらゆる世代がいきいきと、安全で安心して生活できる地域社会の実現に全力を傾注してまいります。

年の初めにあたり、県民の皆様のますますの御健勝と御多幸をお祈り申し上げますとともに、社会福祉に対するなお一層の御理解と御協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。

平成22年元旦

多彩な芸能で魅了 第12回 芸能チャリティ公演

2年ぶりの公演にのべ500人が出演

11月8日、浦添市てだこホールにて「第12回 芸能の夕べ」が開催されました。この公演は、社会福祉活動の資金造成を目的に開催されたもので、八重山民謡の大御所である山里勇吉先生が企画・編集を手掛けました。

2年ぶりとなった舞台では、昼・夜あわせて延べ500人ものボランティアが出演し、琉舞、日舞、八重山舞踊、演歌、マジック等の多彩な芸能で観衆を魅了しました。

出演者の華やかな演舞に、来場した多くの観衆からは、盛んな拍手が送られていました。

▲本公演の収益金は、本県の福祉活動の資金として役立てられます。

全社協会長・中央共募会長・全民児連会長表彰 伝達式

各功労者へ表彰状を授与

12月15日、県総合福祉センターにおいて「平成21年度全社協会長・中央共募会長・全民児連会長表彰合同伝達式」が開催され、呉屋清徳 県社協 県共募副会長、宮國泰雄県民児協会長より、各功労者へ表彰状が手渡されました。

伝達式の中で、呉屋副会長は、「皆様の御功績は後輩のお手本となって受け継がれていくでしょう。」と受賞者にあいさつを述べました。

その後、受賞者を代表してあいさつに立った与那国町民生委員の石底喜美氏は、「多くの仲間や支援していただいた皆様に感謝しています。栄誉にお応えすべく、これからも努力して参ります。」と謝辞を述べました。

▲各受賞者の皆さま おめでとうございます。

シリーズ 活動最前線

地域のいこいの広場を作る ゆんたく会

浦添小学校の校門向かいに広がる花壇の日頃の手入れを行い、維持管理に務めているのが、「ゆんたく会」（代表／崎原エミ子さん）である。

メンバーは、浦添市社会福祉協議会が、平成16年度から始めたコミュニティソーシャルワーク事業で、各中学校区ごとに地域づくりを進める中、開催した「シルバーボランティア養成講座」や「ちょいボラおやじ養成講座」などの受講生が中心であり、平成18年度に浦添中学校区の地域づくりボランティアとして「ゆんたく会」が設立された。

会の主な活動である「広場の整備作業」は、もともと雑草地で暗い雰囲気だった浦添小学校前の通学路を子どもや大人が、安全に安心して歩けるように、と地域の企業や個人のボランティアらの協力の下、ユンボで土を掘り起こし、テストピースというコンクリートブロックで花壇や遊歩道を作り、花の苗を植え付けたことから始まった。

今では、近くの児童センター「つちっ子クラブ」の1年～5年生の子どもたちと月に2回、共同で作業を行っており、世代間交流をとおして、土に触れ、植物を育てる経験の少ない子ども達へ、苗の植え付け等の手ほどきをしながら活動を共に楽しんでいる。

現在、22名の会員が、毎月1回の定例会での話合いをもとに、各々の都合の良い時間帯に作業を行っており、家事や地域行事等に忙しい女性メンバーらは、日曜日の朝6時に集まるなど、地元メンバーである利点をうまく活かしながら活動を継続している。

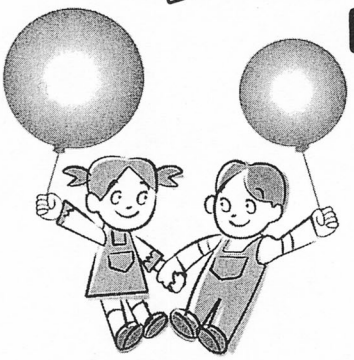
これまでは、浦添市の「まちづくりプラン賞」を受けて、3年間の活動にかかる費用を確保してきたが、今年度は、地域を巻き込んだ奉仕活動が評価され、大同生命厚生事業団のシニアボランティア活動助成金を受けており、活動の実績を積み重ねながら、必要資金の確保にも工夫を凝らしている。

▲取材当日、又吉さん、比嘉さん、知名さんが子どもたちの作業のサポートを行っていた。

安心を支えます

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償事故を補償



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症（日射病・熱射病）による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震等天災によるケガも補償（天災タイプ加入の場合）

ボランティア行事用保険

地域福祉活動の一環として行うボランティアに関する行事におけるケガや賠償事故を補償！

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャー等の活動中のケガや賠償事故を補償！

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故等によるケガを補償！

保険料（掛金） Aプラン…260円 Bプラン…420円 Cプラン…590円
天災危険補償タイプもあります。

※各プランの保険金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご覧ください。

お申込み、ご照会は、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

http://www.fukushihoken.co.jp

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

沖縄県共同募金会より

中央競馬馬主社会福祉財団助成金 平成21年度 1,180万円決定

平成21年度中央競馬馬主社会福祉財団助成金決定通知書伝達式が、平成21年11月6日（金）に那覇市首里にある沖縄県総合福祉センターで行われました。

本県の今年度の助成金は、3団体に総額1千百8拾万円が決定し、県共募呉屋清徳副会長より各団体の代表者へ決定通知書が手渡されました。また、3団体の代表として大成福祉会（みつる保育園）玉城智彦園長よりお礼のあいさつを述べました。

▲呉屋副会長より決定通知が伝達された

中央競馬馬主社会福祉財団の助成金は、中央競馬の馬主達が自分達の手で目に見える形で社会福祉の発展に貢献し、併せて競馬に対する社会の認識を高めることを目的として、競馬の賞金の一部を自主的に拠出することにした、昭和44年10月に財団法人として設立され、全国の民間社会福祉施設等に助成金を交付している。

平成21年度中央競馬馬主
社会福祉財団助成金決定一覧表

法人名（施設名）	事　業　名	助成金額
（福）ダンヌ会 （特養老人 月桃の里）	ネットフェンス復旧工事	5,870千円
（福）大成福祉会 （保育園 みつる保育園）	保育園改修工事	4,450千円
（福）千寿会 （グループリビング 千寿）	福祉車両整備	1,480千円
合　　計		11,800千円

災害義援金へご協力ありがとうございました

去る7月に発生しました「山口県7・21大雨災害・福岡県7月豪雨災害義援金」に対して、本会がその支援を呼びかけましたところ、貴殿（会）を始め多くの県民から心温まる多額の浄財をお寄せいただきました。

皆様からお寄せいただきました義援金は、被災地の災害状況を考慮して山口県共同募金会及び福岡県共同募金会へ送金いたしましたことをご報告申し上げますとともに、ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

また、8月9日の台風9号による災害があり、岡山県美作市及び兵庫県佐用町・宍粟市・朝来市において災害救助法が適用され、各被災地の県共募より協力依頼がありましたが、募集期間が同時期の為協力依頼の呼びかけはしませんでした。しかし、災害救助法が適用されておりましたので、協力していただいた義援金より岡山県共同募金会及び兵庫県共同募金会へ送金しましたことをご了承願います。

ここに改めて、ご協力をいただきました皆様方へ厚くお礼を申し上げます。

なお、貴殿からお寄せいただきました義援金の配分状況は下記のとおり、被災地の県共同募金会を通して被災者へ配分されることになっておりますので、ご報告とお礼を申し上げます。

1．沖縄県共同募金会取扱額

155件　3，171，196円

2．送付先及び送金額

・山口県共同募金会	1，000，000円
・福岡県共同募金会	1，000，000円
・岡山県共同募金会	500，000円
・兵庫県共同募金会	671，196円
計	3，171，196円

3．送金日

平成21年10月29日

沖縄県共同募金会
TEL／098-882-4353
FAX／098-882-4270
http://www.okihakyo.or.jp/html/kyoubo/

愛ちゃんと希望くん

©中央共同募金会

ほっとニュース TOPICS Vol.129

第52回沖縄県社会福祉大会 一、三〇〇名余の福祉関係者が参加

～みんなで創ろう、安心して暮らせる福祉社会～

第52回沖縄県社会福祉大会（主催／県、県社協、県共募）が平成21年10月29日(木)、沖縄コンベンションセンター劇場棟において開催された。

▲表彰状の授与（仲里副知事）

式典では、多年にわたり県内福祉に功績のあった方々に対する表彰が行われ、県知事表彰・感謝に35名、2夫妻、4団体、大会長表彰・感謝に225名、6夫妻、49団体への表彰が行われた。

新垣雄久大会長は、「景気の低迷等により、生活不安が高まっている国民の暮らしに対しては、緊急雇用対策や低所得世帯への生活支援等、セーフティネットの強化が急がれている。その一方で、障害者自立支援法の廃止が打ち出されるなど、新政権による既存の制度・施策の見直しが進められており、私たちは今後の動向を注視していくとともに、現場の実情に即した福祉施策の確立を求めていく必要がある。」と式辞を述べた。

▲新垣会長の式辞

また、被表彰者代表あいさつは、ボランティア功労を受賞した前川守賢氏が行い、笑顔の宅配サービスとして長年ボランティア活動を続けてこられた思いを語り、人気のある民謡と三線で会場にも笑顔を配り、大会参加者を盛り上げた。

▲前川守賢氏

今大会で採択された宣言文では、誰もが尊厳を持っていきいきと生活することができるよう、公的な支えとしてのセーフティネットの充実強化と、地域の福祉力の向上に、より一層取り組む決意を新たにし、私たち社会福祉関係者は総力を結集して、本県における福祉文化を積極的に創造しつつ、県民一人ひとりが共に支え合い、安心して暮らせる福祉社会の実現を目指して、全力を傾けることを誓った。

式典に続いて、「沖縄の自立と福祉を考える」と題して、前沖縄県知事の稲嶺惠一氏による記念講演が行われた。

（被表彰者の芳名及び大会宣言文については、本会ホームページにおいて1月末日まで掲載しています）

記念講演（要旨）「沖縄の自立と福祉を考える」

稲嶺惠一氏（前沖縄県知事）

知事在任中は、今のように経済的に厳しい社会情勢で、本県では、ハコモノ事業は凍結とされていたが、唯一、福祉活動の拠点としての県総合福祉センターを造ったことが思い出深く残っている。

沖縄の社会はどうあるべきか。福祉の問題と基地の問題は、元を辿ると根っこは一緒。それぞれ難しい時期に来ている。重要なことを議論しないで先送りにしてきたからである。

物事には全て良い面と悪い面がある。それは光と影のようなものである。両者の立場から意見をぶつけ合い、本気で議論することによって、ベストではなくても、よりベターな方を選択していくこと。

これからの福祉は、公的なものだけでは成り立たない。ボランティア活動の基礎づくり、仕組みづくりを行うとともに、教育の中でも福祉の重要性を認識し、人間の命の大切さや心の大切さをしっかりと教えていかなくてはならない。

▲稲嶺惠一氏

世界的にも日本においても、環境と福祉が重要課題としてクローズアップされており、従来の制度のあり方だけではいけないということ、福祉を見直す時期にあることは多くの人が政治の場でも自覚している。いきなり転換はできないが、これから必ず一歩一歩よい方向に進むものと確信している。

（文責：県社協企画広報部）

高齢者の「輝き力」を引き出す介護予防レクリエーションのすすめ

「介護予防」とは、介護が必要な状態になることをできる限り防ぐ（遅らせる）こと、そして要介護状態であっても、状態がそれ以上に悪化しないようにする、維持・改善と定義されています。

県内でも様々な介護保険事業所で取り組まれ、手芸や筋力トレーニングといった頭や体を鍛える教室が実施されています。

しかし、きちんとプログラム化されている介護予防メニューでも、実際の利用者がそこに楽しみがなければなかなか続かないことも。

沖縄県社会福祉協議会では、今回一つの提案として日常のなかで実施されるレク活動メニューに介護予防の理論を取り入れ実践している（財）日本レクリエーション協会（東京都）との連携により、2日間にわたり、県内2ヵ所で「介護予防レクリエーション」プログラムを体験する研修（11月17日・18日）を実施しました。

参加者は作業療法士や介護福祉士、介護支援専門員といった専門職が中心の約170名（2日間計）。

講師は同協会所属の小久保信幸氏（福祉レク・研究開発チームチーフ）、小山亮二氏（同ディレクター）の二人。

各講師は、大学院等で学んだ専門理論を活かし全国各地で講座を展開しています。

研修参加者からは、運動ではなくレク活動であれば利用者が抵抗なく参加しやすくなる、といった声も聴かれました。

今回の講座は高齢者福祉施設や事業所から個別に講師依頼を受けることも可能。

▲参加者は体を動かしながら学んだ

お問い合わせ：
沖縄県レクリエーション協会
住所：沖縄市比屋根672
（県総合運動公園内）
電話：098-932-9870

「聴く」チカラを伸ばす～高齢者の自立生活を支援するセミナー開催。

沖縄県社会福祉協議会では、去る12月1日（火）に県内の在宅介護支援センターや地域包括支援センター等の職員を対象に「支援力アップ実践セミナー」を開催しました。参加者は70名。講師に足立区社会福祉協議会（東京都）地域福祉推進課長の和田忍氏を招き、今も現場の最前線で高齢者の在宅生活を支えている事例も交えながらセミナーを行いました。

セミナーのテーマは「自立」と「支援」。和田氏は講義のなかで、自立支援とは、その「ひと」の生活をより潤いあるものとすることを目指し、人生の主役であるその「ひと」が必要とするとき、そっと寄り添う「使いやすい心有る杖」ではないだろうか」と参加者へ問いかけました。

そして、相談・面接業務に携わる専門職員の基本的心得として、「聴く」ことを中心に行う面接を意識化することを提案。

「聴くとは話さないことではありません。受止めるコミュニケーションの方法です。」と講義の中でアドバイスされました。

▲講師の和田 忍 氏

～社会的自立を育む環境づくりを目指して～第28回沖縄県児童養護研究協議会開催。

去る11月25日、第28回沖縄県児童養護研究協議会（主催・県社会福祉協議会、県児童養護協議会）が県総合福祉センターにおいて、県内の児童養護施設をはじめ、関係機関・団体の職員250名余が集い、開催された。

本研究協議会は、虐待やいじめ等、児童に関する社会的問題が年々複雑化している中で、日常生活におけるかかわりや支援を通して、今後の社会的自立に向けた支援方策について、研究協議等を行う目的として開催。

全体会（午前）では、県青少年・児童家庭課の吉川浩由副参事から「要保護児童施策等について」と題し、県内の児童虐待の現状等について説明がなされた。引き続き、県立総合精神保健福祉センターの仲本晴男所長から「こころの病を抱える児童と親の理解及び支援について」と題し、うつ病や発達障害等、精神疾患に関する正しい理解と対応等について講演が行われた。

午後からは、4つの研究部会に別れ、各施設が直面する諸課題（事例）について、活発な意見交換・討議等が展開された。

最後の医介輔　宮里善昌氏
第39回毎日社会福祉顕彰受賞

昭和27年に平敷屋介輔診療所を開設してから56年間、地域の患者や住民らに「イミガー（屋号：栄新川）のオトー」と呼ばれて親しまれ、診察を通して、人々の暮らしに寄り添い続けた医介輔の宮里善昌氏が、今年度の毎日社会福祉顕彰を受賞した。

へき地にある診療所で宮里氏は、早朝から子どもや高齢者など、多い日には200名の患者の診察を行い、夜も遅くまで往診に回った。内科、外科、産婦人科など全科を診てきたことが、苦労した点でもあった反面、いい勉強になったと宮里氏は言う。

宮里氏がこの仕事に必要としてきた「優しさ」とは、相手の立場に立って、その人を受け入れることであり、医療面のみの関わりではなく、生活全てを受け止めていく姿勢だと言える。事実、診療代に困っている人からはお金を受け取らず、貧しさに苦しんでいる人には、必要な食べ物や物資を分け与え、本島の大きな病院での検査が必要な患者には、交通費まで渡すなど、収入を度外視してきた宮里氏を妻のキヨさんが養鶏などで支え続けていた。

娘の光枝さんは、そんな両親の姿を「当たり前だと思っていたし、父のことを書いた記事を読んで初めて、父が地域の人からどれほど頼りにされ、慕われているかを知ることも多い。自分から家族には、そういうことを話さない父でしたから」と言う。

年齢と共に耳が遠くなってきた宮里氏が「誤診をしては大変」と、周囲に惜しまれながらも引退してから約1年が過ぎた。「父がそこに居ることで、安心してくれる方も大勢いるので、診療所の跡地を利用して、地域住民の集まる場、父の医介輔の活動を残し伝えていく場として、サロンみたいなものでも造ろうか、と子ども達で話しているんですよ」と、光枝さんは宮里氏にも未だ伝えていなかったプランを語られた。

▲自宅庭先からは浜比嘉島周辺の海が眺望できる
（左より宮里善昌氏、長女の富山光枝さん）

毎日社会福祉顕彰とは

1971年、毎日新聞社会事業団の60周年を記念して設定し、毎年実施。

全国の社会福祉関係者および団体の中から、とくに優れた功績をあげ、社会福祉の発展向上に貢献している個人あるいは団体を顕彰し、新しい福祉国家の形成と発展に寄与するねらいで実施。

医介輔とは

沖縄・奄美だけに認められた特別医療制度。戦争による医師不足を補うため、1951年、米国民政府は医師助手などを対象に試験を実施し、県内では宮里氏を含む96人が合格。復帰時においても、慢性的な医師不足は解消されておらず、「限定した地域における一代限りの診療」であることを条件に医介輔制度の存続が認められた。うるま市平敷屋にて診療を続けていた宮里氏が平成20年10月6日、高齢を理由に廃業した事により、同制度は終焉を迎えた。

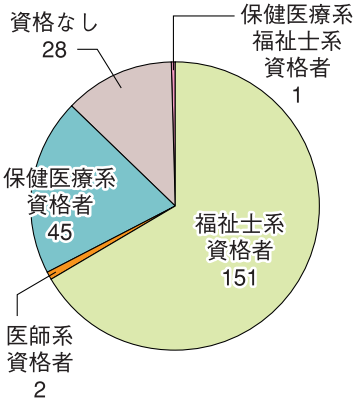
沖縄県介護支援専門員実務研修受講試験
12月10日　合格発表

今年で12回目を数える「平成21年度　介護支援員実務研修受講試験」の合格発表が、去る12月10日全国一斉に行われました。

本県では受験者総数1，681名中227名の合格者で合格率は13.5％の結果となりました。

年　度	受験者数	合格者数	合格率（%）
平成10年度	2,532	811	32.0
平成11年度	2,416	793	32.8
平成12年度	1,613	403	25.0
平成13年度	1,298	285	22.0
平成14年度	1,392	277	19.9
平成15年度	1,396	274	19.6
平成16年度	1,292	262	20.3
平成17年度	1,404	232	16.5
平成18年度	1,385	183	13.2
平成19年度	1,440	256	17.8
平成20年度	1,600	253	15.8
平成21年度	1,681	227	13.5
合　　計	14,728	3,520	―

今年度合格者の受験資格内訳



いい日いい日 11月11日は介護の日

高齢者や障害者等に対する介護の重要性や介護職の定着支援などを国民にアピールするため、国は平成20年に11月11日を「介護の日」と制定しました。

「介護の日」記念 認知症高齢者ケア特別講演会 藤川氏の講演に900名余の聴衆

「支える側が支えられるとき～認知症の母が教えてくれたこと～」と題して、認知症の母に寄り添いながら命や認知症を題材に作品を作り続ける介護詩人藤川幸之助氏の講演を平成21年11月11日、豊見城中央公民館大ホールにて行なった。（主催／沖縄県社協）

21年前にアルツハイマー型認知症を患った母親（81歳）の変容していく様子に戸惑い、多くの葛藤や苛立ちを覚えながらも家族として介護にあたるご自身の経験談を包み隠さず、素直な言葉で語られ、多くの参加者が目頭を押さえながら聴き入っていた。

私たちから見れば奇行に思えるような行動でも、認知症者には独特な物語が頭の中に広がっているので、その行動の後ろにある物語を理解し、読み解くということが大切である。亡くなった父を探していた母の気持ちを理解できずに、徘徊をしている母親に対して「どこにも行くな、ここに座っておけ」と言い、徘徊を止めさせようとしていたご自身の体験談を紹介し、言葉はなくても母の心を読み解こうとすることで、介護する側の自分が変わっていったという。

また、認知症はその人からあらゆる記憶を奪い去ってしまうと思われているが、母の介護をしていた亡き父がいつも母と共に歌っていた「旅愁」という歌を父の歌い方を真似て歌うと、言葉を発することのなくなった母が「うぉぉ～」と声を出して反応する。その姿を見ると、人間は言葉や意味を超えて、何かを伝えることが出来ると信じていると、藤川氏は力強く聴衆へ伝えた。

▲藤川氏

▲会場の様子

参加者の感想より

●義父がアルツハイマー型認知症と診断され、半年が過ぎ、一緒に生活していく中、本当に色々なことが起こります。今日の講演で共感もあれば、学ぶこともありました。これから先、色々なことが起こり、色々な体験をすると思います。今日の講演を思い出しながら、認知症の義父と向き合っていきたいと思います。（40代、主婦）

●デイサービスで勤めていますが、認知症高齢者への対応にとても大変と感じておりました。昨日もトイレ誘導時、右手をかまれそうになりました。私もおむつ交換に必死になり、本人の気持ちより自分の気持ちを優先して行動していましたが、今日のお話を聞き、明日からの誘導が楽しみになりました。人を支えることは、人に支えられること。とても心に響きました。（20代、介護職）

●自分にも昔、アルツハイマー型認知症の祖母がいたので、その祖母を思い出して、聞いていたら涙が止まりませんでした。今日、聞いたことを、現場実習の時の参考にしようと思います。（10代、学生）

●私は102歳の母を看ています。体験が先生の話の中で同じだと思い、涙が止まりませんでした。母がどんな形でも生きているだけで、どれだけ自分が生きる支えになっているか、言葉になりません。今後、母だけでなく介護の仕事を自分が出来る力でやっていく予定で、勉強中なので今日は第一歩になりました。（60代、主婦）

当日は、介護福祉士を目指す沖縄リハビリテーション福祉学院の学生によるアトラクションが講演会を盛り上げた。

▲勇壮なエイサーの演舞する学生の皆さん

ふれあいタオル寄贈事業から 介護を身近に考える

「介護の日」を記念して県社協では『ふれあいタオル』の収集・寄贈事業を実施した。これは、多くの方々に介護を身近なものと捉え、関心を寄せてもらうことを目的に、県内の小・中・高校生の協力のもと、未使用タオルの収集を行い、集められたタオルは各市町村社協を通して、社会福祉施設や在宅介護世帯へ贈るものである。

10月26日現在、29市町村、61校の学生25、513名の協力によって、数多くの未使用タオルが集まった。

タオル贈呈式では、学生を代表して、豊見城南高校の知念駿直君が「高齢者の介護に役立てて下さい。」と、豊見城市社協呉屋影正会長へ目録を手渡した。これに対し、呉屋会長は、「学生さんの思いの込められたタオルを有効に活用します。」と応えた。

▲タオル贈呈式

「介護の日」をアピール 介護福祉士養成校学生ら約400人が那覇市内をパレード

11月11日、沖縄県介護福祉士養成校連絡会主催による「介護の日」記念パレードが行われた。那覇市与儀公園で行なわれた出発式をスタートにひめゆり通りからモノレール牧志駅、国際通りを通って、県庁前広場を終着点に「老後は介護福祉士にお任せください」、「あなたの笑顔が見たいから」等と訴え、介護の仕事についてアピールした。

今年度、最後の定期講座です。お申込みはお早めに！

感　謝

受講者の皆様お疲れ様でした。おかげさまで下記の講座を無事に終了することができました。受講者の皆様のご協力と頑張りに感謝します。

＜SKILL UP＞
10月23日～12月11日の間に8講座を開催し、延べ57名の方が受講されました。その中の8名の方は全講座を受講され修了書が授与されました。

ご覧ください

当センターのホームページをリニューアルしました。

講座・研修の予定や内容、セミナー・イベント等について最新の情報を見ることができます。

また、当センターの事業概要、地図、交通案内等も掲載していますので、是非一度ご覧ください。

ホームページをご覧いただくには沖縄県社会福祉協議会のホームページを経由するか、下記のURLへ直接アクセスしてください。

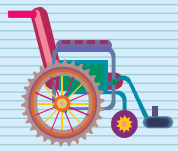
http://www.okishakyo.or.jp/html/kaigozisyu/

一般県民対象

はじめようシリーズ2

① 1/ 7（木）「福祉用具編」（ベッド・排泄編）
② 1/14(木)「入浴編」
③ 1/21(木)「着脱編」
④ 1/28(木)「食事編」
⑤ 2/ 4（木）「住宅改修編」

・定員　16名（申し込み順）
・時間　13時30分～16時30分
・会場　沖縄県総合福祉ｾﾝﾀｰ
・料金　200円/１講座（全５回）
・受付　12月7日（月）より（電話・Faxにて）



お申込み・お問い合わせ

沖縄県介護実習・普及センター
・電　話　098-882-1484
・Ｆａｘ　098-882-1486

第1回沖縄ねんりんピック かりゆし美術展 開催

高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進を目的とした「第1回沖縄ねんりんピック　かりゆし美術展」が、平成21年11月12日（木）から15日（日）まで、那覇市おもろまちにある沖縄県立博物館・美術館県民ギャラリーで開催されました。

出展作品は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門で、入賞作品35点を含む合計115点が展示され、どれも高齢者のパワー溢れる素晴らしい作品で、連日多くの来場者で賑わいました。

初日のオープニングセレモニーでは本会会長あいさつ並びに県知事からの祝辞があり、受賞者代表を含めテープカットを行いました。

▲オープニングセレモニー

▲表彰式終了後の記念撮影

その後の表彰式では、沖縄県知事賞をはじめ最優秀賞など表彰状の授与が行われました。また、田中睦治審査員長（県立芸術大学教授）からは、受賞者の皆さんのさらなる創作意欲を鼓舞する講評がありました。

厳正な審査の結果、沖縄県知事賞には表現力や完成度の高さが評価され、洋画部門から池村嘉則さんの「シーサーのある風景」が選ばれました。

なお、各部門の上位2作品（※）は、次年度開催される第23回全国健康福祉祭いしかわ大会（ねんりんピック石川2010）へ沖縄県代表作品として出展されることになっています。

※原則として各部門の最優秀賞、優秀賞受賞作品を来年度のいしかわ大会へ推薦しますが、県知事賞の出た洋画部門は県知事賞、最優秀賞受賞作品を推薦することとします。

第1回沖縄ねんりんピック かりゆし美術展受賞作品

▽沖縄県知事賞

【洋　画】「シーサーのある風景」
池村嘉則（那覇市　62歳）

▲沖縄県知事賞受賞
「シーサーのある風景」

▽最優秀賞

【日本画】「竜巻」
白金直（沖縄市　61歳）
【洋　画】「陸上での語らい」
大城信利（南風原町　64歳）
【彫　刻】「男の首」
仲村廣吉（宜野湾市　65歳）
【工　芸】「琉球南蛮焼きしめ」
又吉榮光（那覇市　62歳）
【　書　】「草枕の一節」
友利宗一（那覇市　66歳）
【写　真】「ファミリーA」
前田貞夫（大宜味村　69歳）

▽優秀賞

【日本画】「遊魚」
伊禮初美（うるま市　65歳）
【洋　画】「古代を偲ぶ」
友利直（中城村　67歳）
【彫　刻】「やんばるのいぶき」
神山文子（うるま市　67歳）
【工　芸】「良いヤド（宿）カリ（借）よ！」
幸地賢造（西原町　64歳）
【　書　】「調和体」
松本洋子（那覇市　73歳）
【写　真】「不寝の番のシーサー（歓会門）」
儀間生子（那覇市　64歳）

▽沖縄タイムス社長賞

【日本画】「幻想　首里城残雪」
深見汎（那覇市　81歳）
【洋　画】「サンニンの色香」
豊元節子（浦添市　65歳）
【彫　刻】「花のささやき（芙蓉）」
平川タミ（うるま市　65歳）
【工　芸】「パッチワーク（思いつくまま）」
平良富子（那覇市　68歳）
【　書　】「啐啄の機」
瑞慶覧啓子（那覇市　69歳）
【写　真】「まなざし」
與儀勇（那覇市　68歳）

▲同年代の作品を前に熱心な様子の来場者

▲真剣なまなざしで作品をみつめる来場者

▽かりゆし賞

【日本画】「風景」川端英助(うるま市 78歳)

【洋　画】「秋深し」比嘉永光(宜野湾市 87歳)

【彫　刻】「菓子ぼん」崎浜澄子(浦添市 79歳)

【工　芸】「ちぶる獅子」宇久照子(那覇市 80歳)

【　書　】「漢字(春色…)」宮城トシ(那覇市 80歳)

【写　真】「うりずんの季」国吉美知恵(那覇市 73歳)

▽特別賞

【日本画】「遠い記憶」仲宗根清効(沖縄市 71歳)

「島の宝鳥ヤンバルクイナ」運天清子(うるま市 71歳)

【洋　画】「早春の池畔」城秀盛(那覇市 74歳)

「旧正月」宇津木信夫(宜野湾市 77歳)

【彫　刻】「復活」賀数繁二(糸満市 63歳)

「少女」西平清志(那覇市 68歳)

【工　芸】「炭インテリヤ(アート)」又吉妙子(那覇市 61歳)

「焼きしめ、対玉のり門柱獅子」大林達雄(那覇市 72歳)

【　書　】「一筆入魂」金城正子(那覇市 68歳)

「曹全碑」高良一實(宜野湾市 60歳)

受賞された皆さま、おめでとうございました！

▲沖縄県知事賞受賞の喜びを語る池村さん

第18回 沖縄県かりゆし長寿大学校運動会 にぎやかに開催！

平成21年11月22日(日)、沖縄県総合運動公園レクリエーションドームにおいて、かりゆし長寿大学校運動会が開催されました。響き渡るファンファーレの中、かりゆし長寿大学校19期生171名による元気な入場行進の後、にぎやかに各競技が行われました。和気あいあいとしたフォークダンスや手に汗握るリレー競技にムードも最高潮、その応援合戦も熱を帯びたものとなりました。また、いきいきクラス、ふれあいクラス対抗の綱引きは1対1の引き分けとなり、白熱した内容で大いに会場をわかせました。この勢いで後半の講義も楽しく頑張ってください！

▲ボールを見事に操り五種競技スタート！

平成22年度（第20期）沖縄県かりゆし長寿大学校 入学生募集！

長寿大学校は平成3年に開設されこれまで多くの卒業生を輩出し、高齢者の生きがい・健康づくりと社会参加の促進に寄与してきました。平成22年度よりカリキュラム等講座内容を更に充実させ、高齢社会を支える人材育成機関として新たなスタートを切ります。

○応募資格　県内に在住し、平成22年4月1日以前に満60歳に達しており、全期間受講できる者。

○修学年数　1学年制(平成22年4月～平成23年3月)。原則として週1回(火曜日または木曜日)午前10時～午後3時(4時間)

○受講料及び諸経費　15,000円(年額)。事務手続きに係る諸経費、学習に係る教材費、課外活動等に係る経費については別途、自己負担とします。

○応募方法　本会所定の入学願書を事務局に提出(郵送可)。

○受付期間　平成22年2月22日(月)～3月5日(金)午前9時～午後5時(土、日、祝祭日を除く)。

○お問い合わせ

社会福祉法人　沖縄県社会福祉協議会いきいき長寿センター(西棟3階315号室)

TEL　098-887-1344

県民児協
広報情報誌
－第35号－
ふくらしゃ
～暮らしに福をもたらす人～
沖縄県民生委員
児童委員協議会
事務所
沖縄県総合福祉センター
連絡先
TEL.(098)882-5813
FAX.(098)882-5814

新年のごあいさつ

沖縄県民生委員児童委員協議会
会長　宮　國　泰　雄

新年、あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご健勝にて新春を迎えられましたことと、心よりお慶び申し上げます。

はじめに、民生委員・児童委員の皆様におかれましては、常日頃より地域福祉の向上におけるさまざまな活動に多大な御尽力をいただいていることに対し、心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

さて、近年わが国では、本格的な少子高齢社会の到来に伴い、核家族化や単身世帯の増加とともに地域住民の意識の変化により、住民同士のつながりは希薄化し、孤立や孤独、医療、介護、子育て等への不安や負担が増し、地域福祉における課題への対応は急務となってきております。

また、児童、高齢者、障がい者への虐待や高齢者の孤独死、悪質商法被害等が増加し、犯罪被害に巻き込まれる子どもたちも後を絶ちません。

このような状況の中、全民児連が「広げよう　地域に根ざした　思いやり」をスローガンに掲げた民生委員・児童委員制度100周年に向けた行動宣言の精神を踏まえ、私たち民生委員・児童委員は、一丸となってあらゆる課題に取り組み、地域住民が安全で安心して暮らせるための活動展開をしていかなければなりません。

今年は一斉改選の年でもあります。本県における民生委員・児童委員の定数に対する充足率の低さは、一斉改選の度に指摘される一方で、その活動日数は増加傾向にあります。

近年、地域社会に散在する多くの課題に対応するため、その職務内容は多様化・複雑化し、専門化していく傾向にあり、民生委員・児童委員の負担感につながっているように思われます。

また、地域住民に民生委員・児童委員の職務がまだまだ十分に理解されていないというのが現実問題としてあります。このことから、私たち民生委員・児童委員が日頃から行っている相談援助活動や見守り活動等を通じて、関係機関等と連携して情報の共有を図り、問題解決のネットワークを構築し、地域住民の民生委員・児童委員への理解を深め、県や市町村の御協力を賜りたいと願う次第であります。

日常的に住民の立場に立って相談援助活動や見守り活動を行っている民生委員・児童委員の役割は、今後ますます重要となることから、民生委員・児童委員が活動しやすい環境整備を進めていくことが必要であり、次期候補者を選出する基盤を広げていくことが期待できると思います。

今後とも相談・支援等を必要とされている住民の方々の期待に添うような地域づくりに取り組んでいけるよう、組織の充実を図りつつ、地域の住民のつながりを築き、誰もが住みなれた地域で安全で安心して自立した生活が送れるような社会の実現に向けて努力していきたいと存じますので、皆様には一層の御支援、御協力をお願い申し上げまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。

民生委員児童委員活動報告

明朗で健全な地域社会づくりを目指して

宮古島市平良第二民生委員児童委員協議会

わたしたち宮古島市平良第二民児協は、児童福祉部、老人福祉部、障がい者福祉部からなる専門部を中心に研修会や諸行事・交流会等に積極的に参加し、自己研鑽に努めながら地域社会の実情を把握し、明朗で健全な地域社会づくりを目標に日々活動しています。

今回、年間を通して行ってきた活動の様子をまとめましたので皆様にご紹介したいと思います。

1．児童館と民生委員児童委員との交流会

宮古島市南小型児童館の地域交流会が年始めに開かれました。同館と利用する子どもたち、民生委員児童委員でゲームや踊りを通して交流を深めました。

同館では、地域の児童を対象に英会話講座を開催、週一回のペースで講座を開いています。

今回、同講座が七ヶ月を迎えたことから、児童たちの中間発表を兼ね

民生委員児童委員との交流会が実施されました。

▲児童との交流

同講座で学んでいる児童らは、英語による自己紹介と歌、踊りを披露し、また、児童らと民生委員児童委員が一緒になって参加したキャンディー運びゲームとトレインゲームでは、会場が一体となって盛り上がり、大きな笑い声と暖かい拍手に包まれていました。

2. 「鯉のぼり掲揚式」行事に参加して

宮古島市は、毎年五月五日から十一日間を児童福祉週間行事の一環として、「鯉のぼり掲揚式」や保育園児たちの絵画展示を開催しており、児童福祉部も協力参加して園児たちを激励しています。

▶鯉のぼり掲揚式

掲揚式当日は、澄みきった五月の青空に舞う鯉のぼりに夢を託して、子どもたちの元気な歌声が響きわたりました。参加した児童福祉部の民生委員児童委員は、子どもたちの健やかな成長と幸せを願う瞬間を意義深くかみしめていました。

その他にも、児童福祉部は各種行事に積極的に参加、協力をし、子どもたちを心身共に健やかに育てるための支援活動や、児童虐待・犯罪被害から幼児・児童生徒を守り、安全・安心な町づくりの推進に努めています。

3. 老人福祉部会の活動

老人福祉部は公共施設の見学や高齢者との交流会、サロン訪問、一人暮らし高齢者宅への友愛訪問等の声かけ見守り活動を行っています。特に一人暮らし高齢者の「安否確認」においては、十分に気を配り、出来る限りの情報の共有をしながら注意深く取り組んでいます。

また、サークル活動等への参加を促し、多くの仲間と共にいきいきと明るく過ごされている高齢者は私たちのお手本となっています。

4. 障がい者福祉施設を訪問して

社会福祉施設会ユームツ会　青潮園（身体障がい者擁護・身体障がい者通所授産施設・日中一時支援事業所）を訪問し、施設長より事業内容の説明を受け、施設利用者の生活の様子を見学してきました。

中でも、通所授産作業内容においては、屋内班が施設建物清掃、かりゆしウェア縫製、精米作業を、屋外班が産業廃棄物収集やビニールハウス農産園芸に取り組んでおり、純粋に作業に取り掛かる彼らの姿に感動さえ覚えました。

また、三障がい者スポーツ大会や障がい者フェスティバルでは、各単位民児協同士の協力もあって、舞台発表や交流の場において連携を深めることができました。

今回、紹介した活動以外にもボランティアガイド講座・みやこ学園祭・薬物乱用防止チラシ配布・災害時一人も見逃さない運動等、一人暮らし高齢者や障がい者の台風時の対策確認マップ作り、災害時に活かそう緊急連絡表の作成等、様々な活動に取り組みながら、わたしたち平良第二民児協は今後とも互いに切磋琢磨していきながら、支援見守り活動を継続し地域に貢献していきたいと思っています。